

バナナ農園を主軸とする農業就労支援プロジェクトの断念と今後について（お詫び）

当院は生活支援や就労支援を長年行い、障害のある人とともに在る精神科の医療機関として、「私たちが働きやすい社会にはまだなっていない」という患者さんの声を起点に、障害のある人などが働きやすい場として、昨年夏より無農薬で皮まで食べられるバナナづくりに夢を持って挑戦したいと歩みを進めてまいりました。

しかしながら、苦渋の決断ではございますが、皆さまとともに夢を持ち続けましたバナナ農園は断念することを決定致しました。

この間、クラウドファンディングや書留、直接など、様々な形での過分なるご寄付金、応援のお言葉も多く賜り、様々な方・団体へのご相談、耕作放棄地（4674 m²）の賃借、色々なチャレンジを可能とするための合同会社の設立、情報収集なども継続して行ってまいりました。

事業資金については地元の金融機関と融資について相談を重ね、事業の目的や計画を前向きに受け止めて頂きましたが、最終的に政府系金融機関が難色を示したことから、地元の金融機関からの融資も極めて厳しい状況となったことがバナナを栽培作物とすることを断念致しました理由です。

『精神科医が一大決心した山陰初バナナ農園への挑戦～誰もが安心して働けるまちづくり～』というプロジェクトにご賛同頂き、過分なるご寄付金を賜りました皆さまには多大なご迷惑をおかけすることになり、誠に心苦しく申し訳なく思っております。つきましては、皆さまから賜りましたご寄付金は全額をお返しさせて頂きたいと思っております。

皆さまのバナナ農園に対するご期待にお応えすることはできなくなりましたが、当院が目標に掲げます「農業を通じて様々な人・団体とつながることで、障害のある人などの働きやすさや収入が増え、障害のある人などへの理解が深まり、あらゆる人が暮らしやすい文化づくり（地域づくり）」を目指す姿勢にはいささかの揺らぎもございません。

その目標達成の遠回りとなるためバナナを手段とすることは断念致しますが、農業で障害のある人などが働きやすい場をつくることに向けた新たなチャレンジを始めております。

何卒諸般の事情をご高察の上、ご理解を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。誠に申し訳ございません。本来であればお詫びに参上すべきところ、略儀ながら書中にてお詫び申し上げます。

医療法人エスポアール出雲クリニック
理事長 高橋 幸男